

## 【奨 励 賞】



氏 名 MATT KIGA  
(マット キガ)

国・地域 アメリカ 

在日期间 4年

勤 務 先 日置市 (外国語指導助手)

### タイトル : 「4」はとびらを開けと言っている

「4」。いいえ、私の一番好きな数字ではありません。何人子どもがほしい、ということでもありません。「4」は、私が現在まで鹿児島にいる年数です。だれがそう思うのでしょうか。アメリカのシアトルで生まれ育ったシティボーイがやってきたのは、こちらのすてきな田舎の吹上でした。今は“すてき”と思えますが、最初はそうではありませんでした。蒸し暑さだったり、虫の多さだったり、“鹿児島弁”という言葉だったり、あと何？黒豚？さて、ここは本当に日本だったかな？こんなところでどうやったら暮らせるの？吹上？シティボーイが田舎に？いや、もう結構です。1年でここを出ようと思っていました。気がつく自分の国にさっと帰ることばかり考えていました。

2019年。私はまだ、ここにいます。4年たちました。鹿児島の空気を吸いながら暮らしています。ついでに桜島の「へ」も吸っています。みなさんがご存知のとおり、鹿児島は少し何か違います。人、文化、イントネーション、ペース…焼酎のせいかもしれないですが、何か違います。今や、そんなところさえ大好きになりました。2015年の夏に、僕は日本で働くことにしました。人生の中で一番大きなステップを踏みました。まあ～それと、初めて納豆を食べた時。アメリカでは日本語の勉強は少ししかしておらず、大学卒業してから1年たったので結構忘れていました。それでも、思い切って、こちらに来ました。緊張しましたが、鹿児島で何でもやってみようと思いました。でも、ほんの2、3ヶ月で心が折れていったのです。

正直、他の国に住むことは難しいです、しかも一人で。怖いです。日本語もうまく話すことが出来ませんでした。自分の気持ちや考えをうまく伝えることも出来ませんでした。説明をする時に、変なジェスチャーをたくさん使ったので、自分がピエロのように思える時もありました。知らないことがあった時は、自分にイライラして、その気持ちがどんどん大きくなって、早くも僕はしおれていきました。

そのうちに、2年目の更新をするかどうかを決める時期が来ました。実を言うと、したくありませんでした。思っていたより、本当に大変だったからです。もう更新はしな

いで帰ろうと思っていたその時です！「やった分だけ返ってくる。」日本に来る前にみんなに言われた言葉が突然、胸の奥から聞こえました。その時、思いました。「マツト、君はここまで来たんだ。壁を壊さないと！自分の殻から出よう！」その瞬間、自分の考えを立て直そうと決心しました。そして僕は更新しました。更新したあとは、もっと頑張りました。毎日の葛藤を自分のモチベーションに変えました。言葉が上手く話せるように、一生懸命勉強しました。周りの人と関係もたくさん築きました。学校の先生方や生徒たち、友だちと、そして家族の方々。この素晴らしい関係を通して、今まで僕に欠けていたものにたくさん気付くことが出来ました。“鹿児島。それは私の第二のふるさと。”心からそう言えるようになったのは、周りの方々の出会いのおかげです。

最後に、皆さんに激励の言葉を残します。

“なこかい、とほかい、なこよかひつとべ！”

どんな壁に直面しても、その不安を振り払いましょう。心配しないで、前を向いて、後ろを向かない。とびらを開かないことには、どんな素晴らしいものが待っているか分からないですよ。他の国の言葉でスピーチコンテストに出るかもしれませんよ。